

会報第46号  
発行日 平成20年7月31日  
発行・編集 V・G 概論  
代表者 大岡成一  
http://web3.ibj.co.jp/kirin

# きりん G 概論だより

## 二料地区 わがまち紹介 「一料山荘で田舎ランチを楽しむ」

高槻市の最北西部に位置する一料地区は、日に僅か4本の市バス(通学用)で、駅から50分ほどかかる山中にあります。

### 一料の集落

細い谷の両側に開かれた水田が続くその先に、谷を挟んで現在23軒という一料の集落があります。元のワラ屋根にトタン屋根をかぶせた形で、それなりの秀麗な気を残しています。この家も立派な構えで、この山里の豊かな歴史を物語っています。



この地方は、高槻市の大半を含む「標津国」ではなく「丹波国」に含まれます。中世には皇室関係の荘

園であり、江戸時代には亀山藩に属するなど、高槻市の他の地域とは違った歴史を歩んできました。

住宅の造りも、「丹波様式」といって、高槻の南の方の民家とは違っています。南の方の民家は田の字型の間取りですが、この地区の民家は冬の厳しい生活に備えて特に台所を広く取っているそうです。

明治22年に田能村・中畑村・出灰村・杉生村が合併して京都府南桑田郡檜田村になりましたが、昭和26年・28年の大豪雨をきっかけに、主に経済的な理由から、昭和33年に高槻市に越境合併して今日に至っています。

### 一料山荘

高槻市は、旧大西酒造の全館を譲り受け、そのまま宿泊所や酒蔵の趣を伝える研修施設として転用したのが「一料山荘」のはじまりです。

大西家では、明治時代中頃から「福久屋」、「共栄

などの地酒を醸造していました。酒蔵は戦時統制により昭和18年に閉鎖された。江戸末期の建築と言われる母屋には古い歴史が感じられる。



酒蔵の趣そのままの秀麗な中、ボタン鍋、地鶏、丹波牛など地元周辺で採れた四季折々の味覚を楽しめます。

春は母狩り、夏は野菜のもぎ取り、秋には稲刈り、冬は餅つき、味噌造りなど体験実習ができます。毎年6月中旬頃にはゲンジボタル、ヘイケボタル、ヒメボタルなど6種類が飛びかっつ虫の里でもあります。

一料山荘は、地元の女性だけで運営されているとはお聞きしていました。JR高槻駅前まで迎

えに来て頂いたのも地元のご婦人の運転でした。曲がりくねった山裾の道をスイスイと運転されて約45分で着きました。車を降りたら、目の前にアジサイの花と煉瓦の四角い煙突のある酒蔵の建物、そこが安威川の上流たそです。

「ボタルの里」と「マムシに注意」の看板にも迎えられました。昭和57年に、当時の面影を残す憩いの場として宿泊施設としてオープンしました。母屋には広々とした和室や茶室があり、和室からは前庭、茶室からはじんまりしたお庭が拝見出来て、上品なたたずまいです。

平成18年に、全客室の畳とふすまを新しくし、母屋には浴室を新しく増設、洗面所やトイレも改装、酒蔵の客室にはエアカンも設置され、昔の風情は残したまま、明るく過こしやすい施設に生まれ変わったとのこと。

酒造様には、大仏間や食堂、事務室など研修・講習会場として使用出来るように講堂等があります。天井も高く、夏の暑

い時期でしたがクーラーもいらなくて、外の冷気が気持ちよく部屋を流れて行きました。酒蔵の玄關に入って天井を見ますと自然の採光と暖かみのある照明で落ち着きます。酒造りに使用されていた小道具も展示されています。

同山荘は、酒造時代の趣を随所に残し、地元の有機野菜や地鶏などをふんだんに使った四季折々の料理を、地元の女性だけで料理していただき、今回は、食事を借り切りで、昔懐かしい田舎料理を満喫でき、宴食を楽しむ事が出来ました。

平成18年に、全客室の畳とふすまを新しくし、母屋には浴室を新しく増設、洗面所やトイレも改装、酒蔵の客室にはエアカンも設置され、昔の風情は残したまま、明るく過こしやすい施設に生まれ変わったとのこと。



ここは、地元の者が、朝野菜を収穫し、料理も楽しく生きがい作りと、明るく話してくれました。

S・O

### 8月度行事予定

「大阪医大歴史資料館 子育て活動支援センター 大学 北園町」

日：平成20年8月21日(木) 13:00集合  
集合場所：阪急高槻市駅 改札出口  
順路：阪急高槻市駅 大阪医大歴史資料館 子育て支援センター JR高槻駅へ  
その他：一般参加者歓迎・名札携帯する事

### 9月度行事予定

「緑豊かな山の中の運動公園のまち萩谷」

日：平成20年9月18日(木)  
集合場所：JR富田駅 市バス乗り場 9:30集合 バス萩谷総合公園行き 9:35発  
順路：高槻市バス JR富田駅 萩谷公園下車 萩の杜 萩谷公園 JR富田  
その他：昼食をお持ち下さい。(公園には何もありません)